

## 第1学年 学級活動（2）指導案

日 時 : 平成26年10月10日(金) 5校時  
 児 童 : 1年2組 男12名 女10名 計22名  
 指導者 : 菊池 恵子  
 (養護教諭 南館 史子)

【研究主題】ふるさとの復興を担う「人づくり」の展開 ～「自分から」かわり、学びを深める児童の育成～

震災当時、私は内陸部の小学校で6年生を担当していた。大地震の発生時は、1週間後の卒業式に向けて、体育館で児童の指導にあっていた。児童は、個々が腰かけていた椅子の下に頭を入れて大きな揺れがおさまるのを待った。図らずも、天災はいかなる場所にいる時にも起こり得るということを体感した出来事だった。また、児童を帰宅させた後に3階の教室に戻り、落下物が散乱している様子に唖然とし、落下物を避けて避難行動をとることの大切さを痛感した。

現学級の児童は、震災当時は3歳だった。避難訓練の時などには、地震の話題に表情がこわばらせる児童、突然思い出したように「津波がきて、怖いんだよ。」と話し出す児童もいる。家庭からの情報でも、地震の話題に敏感に反応する児童が多いことが分かっている。幼くて訳も分からずただ怖い思いをしたことが心に残っている児童に、小学校に入学した今、どのようにすれば身を守ることができるのかを理解させ、「こうすれば安心。」という気持ちをもつことができるようにしたい。

本題材では、学校の中でも1年生の児童がよく知っている場所を取り上げ、それぞれの場所での避難行動を危険度とともに把握させることで、安全に落ち着いて行動するために必要な知識と態度を身に付けさせたい。

### 1 題材名 学校で「じしん」がおこったら

### 2 単元の構想

#### (1) 学習指導要領に示されている指導目標及び内容との関連

##### ○目 標

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

##### ○内 容

[第1学年及び第2学年] [共通事項]の中での位置付け

学級を単位として、仲良く助け合い楽しい学級生活を楽しくするとともに、日常生活や学習に進んで取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。

##### [共通事項]

- (1) 学級や学校の生活づくり
- (2) 日常生活や学習への適応及び健康安全  
カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

#### ○学習の系統（本校の防災教育の学年別目標から：観点は「生きる力」を育む防災教育の展開 文部科学省より）

	ア 知識、思考・判断	イ 危険予測・主体的な行動	ウ 社会貢献・支援者の基盤
低学年	☆教師や放送の話や指示を注意して聞き、理解できる。 ☆日常生活や災害発生時の安全な行動の仕方が分かる。	☆安全・危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動できる。 ☆危険な状況を見付けた時、身近な大人にすぐに知らせることができる。	☆高齢者や地域の人と関わったり、友達と協力して活動に取り組んだりすることができる。
中学年	☆地域で起こりやすい災害や地域で過去に起こった災害について知り、安全な行動をとるための判断に生かすことができる。 ☆被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解したりすることができる。	☆災害時における危険を認識し、日常的な避難訓練等を生かして安全を確保する行動ができる。 ☆危険な状況を予測し、日常からの環境整備に気をつけることができる。	☆自分たちの生活を支える人々に感謝する気持ちを持ち、周りの人々と協力して人の役に立つ行動をすることができる。
高学年	☆災害発生メカニズムの基礎や過去の災害例から危険を理解することができる。 ☆備えの必要性や情報の活用について考え、安全な行動をとるための判断ができる。	☆日常生活において、災害についての知識を基に、正しく判断し、主体的に安全な行動をとることができる。 ☆被災の軽減、災害後の生活を考え、備えることができる。	☆地域の防災や被災時の助け合いの重要性を理解し、自分から進んでボランティア活動に参加することができる。

(2) 題材構想図

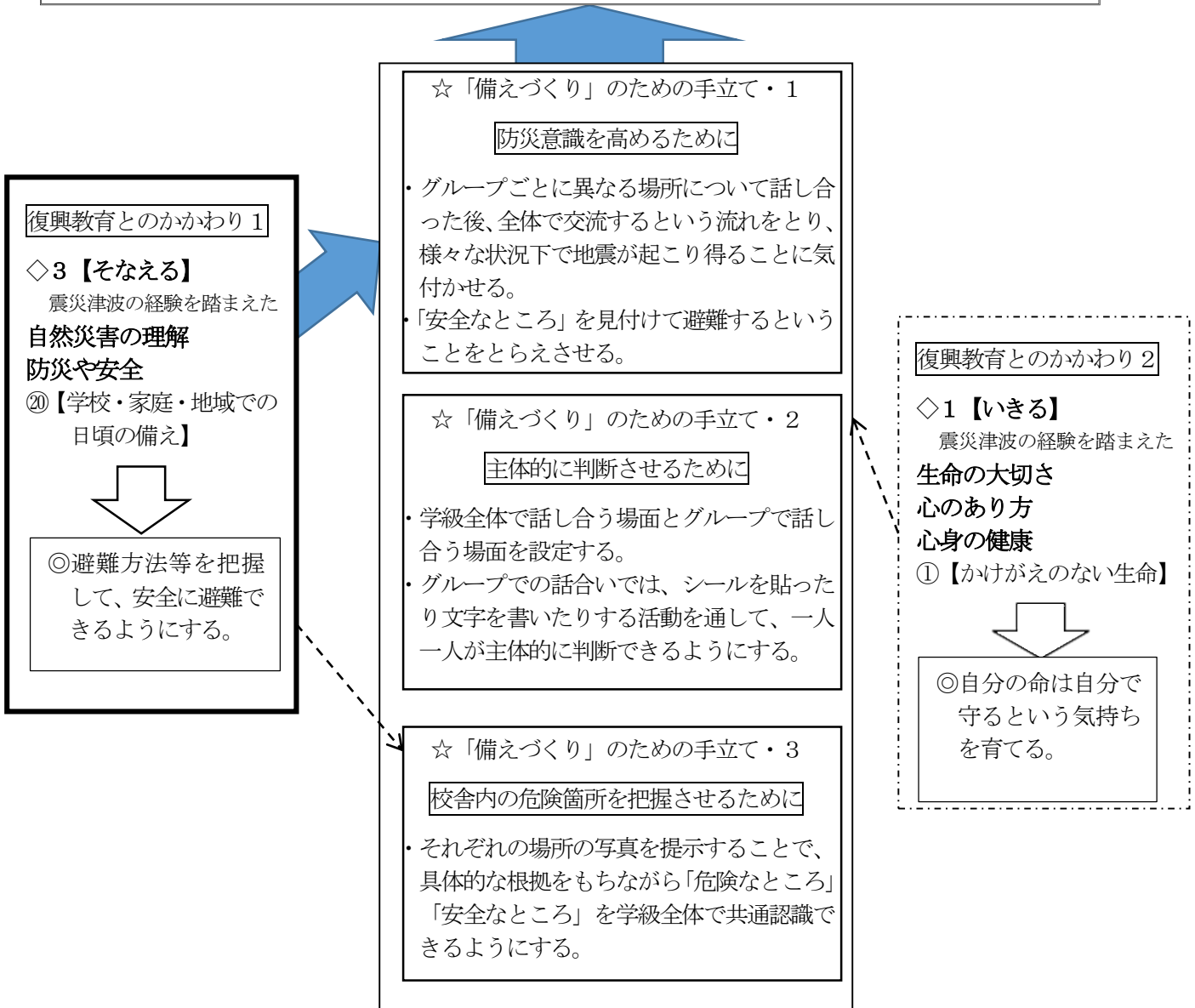
◎本校の復興に向かう合言葉 = 「自分から」

防災教育=復興教育の基礎学習

《本題材で目指す子どもの姿》

【つなぎ合う～備えづくり】

非常時にどのように行動するかを主体的に考え、自分の身を自分で守ろうとする子



【児童の実態】

- 校舎内での行動範囲が広がってきている。それぞれの場所の使い方や約束事を知り、学校の一員としてよりよい生活をしようとしている。
- これまでの避難訓練に真剣に取り組んできている。落ち着いた態度で指示を聞き、行動することができる。
- 震災時に津波を目撃したり住居の損壊を経験したりしたため、「地震」と聞いて怖がる児童がいる。

【題材について】

学校生活に慣れてきているこの時期の児童にとって、教室をはじめとして、学校の様々な場所において地震から身を守る方法を知ることは必要不可欠である。

本題材は、安全な場所と自分の身を守るための行動を、危険箇所や危険度とともに把握することで、安全に落ち着いて避難するために必要な知識および態度を身に付けられるものであり、今後の生活に結びつけていくことのできる題材である。

(3) 題材の目標

集団生活や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活への 知識・理解
進んで話し合いなどの活動に取り組むことができる。	災害時の安全な行動について考え、意欲的に行動することができる。	災害時の安全な避難の仕方について正しい知識をもつことができる。
<b>【防災教育との関連】</b> イ 危険予測・主体的な行動 ☆安全・危険な場や危険を回避する行動の仕方が分かり、素早く安全に行動できる。		

3 指導計画

	活動内容	いつ	指導上の留意点・資料	評価規準 (評価方法)
事前	○避難訓練に参加し、津波が想定される場合の避難の仕方を知る。	避難訓練	被災の状況や震災後現在までの「心とからだの健康」の状況に留意する。	<b>【知識・理解】</b> 非常時に自分がどのように行動すべきかについて理解し、行動している。 (行動観察)
本時	○教室にいるときに地震が発生した場合、どのように行動すればよいのかを考える。	学級活動	校舎内の様々な場所について、危険箇所とともに、地震が起きた時の行動について考えることができるようにする。	<b>【思考・判断・実践】</b> 写真資料をもとに、危険箇所をとらえるとともに、安全な行動の仕方を考え、主体的に実践しようとしている。 (発言・記述)
事後	○休み時間における地震を想定した訓練に参加し、避難の仕方を再確認する。	避難訓練	授業で学習したことを活かし、実際に避難行動をとることができるようにする。	<b>【思考・判断・実践】</b> 授業で学習したことを想起し、避難の仕方を考え、実践している。 (行動観察)

4 本時の学習について

(1) 目標

- 校舎内の危険箇所を知るとともに、安全に避難するための行動の仕方を考えることができる。

(2) 評価規準

思考・判断・実践	(発言・記述) 写真資料をもとに、危険箇所をとらえるとともに、安全な行動の仕方を考え、主体的に実践しようとしている。
----------	---

<p>&lt;努力を要する児童への支援&gt;          写真をもとに設定された場所についての想起を促すとともに、友達の考えに耳を傾けさせ、思考の手助けをする。</p>
--

(3) 「備えづくり」のための手立て

<p>ア 防災意識を高めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに異なる場所について話し合った後、全体で交流するという流れをとり、様々な状況下で地震が起こり得ることに気付かせる。</li> <li>・「安全なところ」を見つけて避難するということをとらえさせる。</li> </ul> <p>イ 主体的に判断させるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級全体で話し合う場面とグループで話し合う場面を設定する。</li> <li>・グループでの話し合いでは、シールを貼ったり文字を書いたりする活動を通して、一人一人が主体的に判断できるようにする。</li> </ul> <p>ウ 校舎内の危険箇所を把握させるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの場所の写真を提示することで、具体的な根拠をもちながら「危険なところ」「安全なところ」を学級全体で共通認識できるようにする。</li> </ul>
--

(4) 展開

段階	学習活動 (○主発問☆補助発問) ・期待する児童の反応	○教師の支援	◎評価 ◇目指す児童の姿
つかむ  5分	1 体操をして気持ちを落ち着かせる。  2 写真資料を提示し、教室に潜む危険について関心をもたせる。 ○ 地震が起こったとして、危険なところはありますか。  3 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">             じしんから みをまもるには、どうしたらよいのだろう。           </div>	○今は本当に地震が起こるわけではないのだと話し、体操をして気持ちを落ち着かせ、学習に取り組めるようにする。 ○養護教諭は、必要に応じて、不安を感じている児童や体調のすぐれない児童に寄り添い、不安をやわらげる。 ○本学級の写真を使い、自分のこととしてとらえさせる。(復興教育副読本P56参照)	◇教室内の危険や地震への備えについて関心をもっている。
ふかめる  35分	4 教室内の危険と安全なところについて、シールを貼りながら話し合う。 ○ 写真の中で、危険だと思ったところはどこですか。赤シールを貼りましょう。 ・窓ガラスのそば ・大きな棚のそば ・蛍光灯の下 ○ 写真の中で、安全だと思ったところはどこですか。青シールを貼りましょう。 ・机の下 ○ 机の下にもぐってみましょう。  5 グループごとに、他の場所の危険と安全なところについて、シールを貼ったり記述したりしながら話し合う。 ①図書室 ②体育館 ③昇降口 <b>【つなぎ合う】</b>  6 話し合ったことを交流する。  ○ダンゴムシのポーズをとってみましょう。	○写真資料にシールを貼りながら、「危険なところ」「安全なところ」について話し合わせる。  ○危険だと思った根拠を問い、「落下物から身を守る必要がある」ことをとらえさせる。  ○落下物から身を守るために机の下にもぐるのだということをとらえさせる。  ○イラスト (復興教育副読本P56) を提示し、机がぐらつかないように机の脚を持つことを確認する。  ○写真を使って新たな場面設定を知らせるとともに、様々な状況の下で地震が起こり得ることに気付かせる。 ○シールと付箋紙を提示し、貼ったり書いたりしながら話し合えるようにする。  ○板書上の写真資料にシールを貼りながら、「危険なところ」「安全なところ」と判断した根拠を発表させる。 ○「安全なところ」が机のない場所である場合、「ダンゴムシのポーズ」(復興教育副読本P57)をとればよいことを確認し、ポーズをとらせる。 ○「ダンゴムシのポーズ」のイラストを示し、実際に頭を守る姿勢をとらせる。	◇教室内の危険箇所をとらえ、避難行動を理解し、行動している。 (発言・行動観察)  ◎写真資料をもとに、危険箇所と安全な行動の仕方を考えている。 (発言・記述)  ◇安全な場所を見つけて避難行動をとることを理解し、行動している。 (行動観察)

ひろげ る 5 分	7 学習のまとめとふりかえり ○ 今日の学習で分かったことを発表しましょう。 【つなぎ合う】	○発表をもとに「落下物から頭を守る」ことを再確認し、他の状況でも同様に行動できるようにする。	◇学習内容を振り返り、分かったことを話している。 (発表)
	8 体操をする。	○心と体をほぐすために、再度体操をする。	

(5) 板書計画

